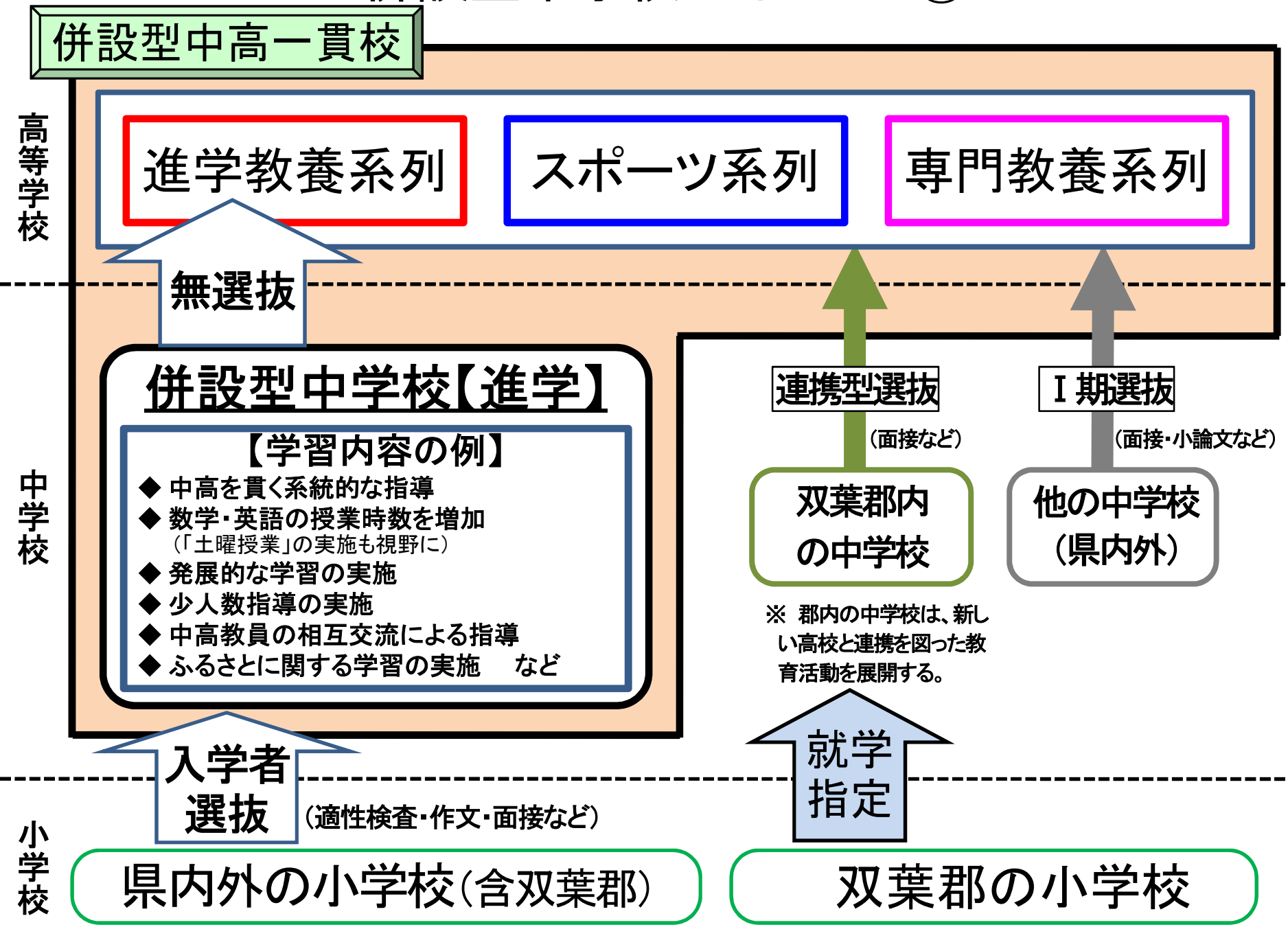
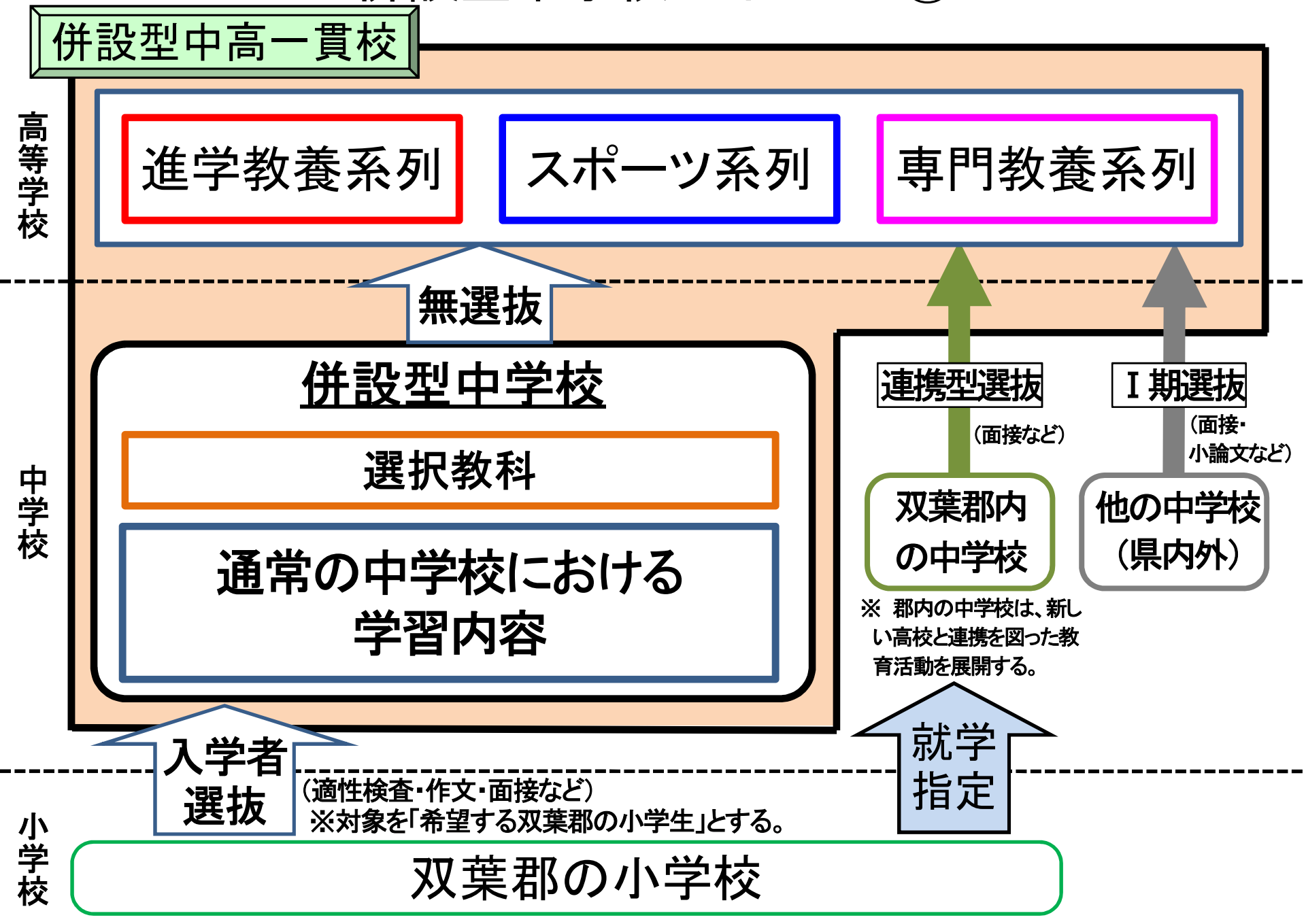
併設型中学校のイメージ①



併設型中学校のイメージ②



併設型中学校のイメージについて

①「進学教養系列」に接続する併設型中学校の在り方

１　特徴

・　併設型中学校の位置付けを「進学」に絞った形態であり、会津学鳳中学校のイメージに近い。
・　県内外の小学生を対象とする。
・　授業時数を増加し、発展的な学習や先取り学習などを実施する。
・　入学者選抜を「適性検査、作文、面接など」により実施する。
・　卒業後は「無選抜」で高等学校に進学し、「進学教養系列」の科目を選択する。

２　想定されるメリット及びデメリット

	メリット	デメリット
双葉郡の子どもたちの受け皿としての役割		●定員、入学者選抜があることから、希望しても全員が入学できるとは限らない。
全国や世界に貢献できる人材の育成	○入学者選抜があり、また通常の中学校より授業時数が多いことから、意欲・能力の高い生徒に対して、発展的な学習や先取り学習などを実施できる。（ＳＧＨやＳＳＨなどの指定校事業の実施も可能）	
入学者選抜について	○適性検査・作文・面接などの入学者選抜を実施することで、意欲・能力の高い生徒を集めることができる。	●設立当初は、親元を離れて入学する生徒がどれだけいるか想定が難しい。 ●実績に応じて、競争倍率が高くなることも想定される。
その他	○すでに会津学鳳中学校の実績がある。	●高等学校に進学した際、併設型中学校の生徒と連携型中学校の生徒との間に大きな学力差が生じている可能性がある。

②「希望する双葉郡の小学生」だけを対象とする併設型中学校の在り方

1　特徴

・　併設型中学校の入学者を「希望する双葉郡の小学生」に絞った形態である。
（「双葉郡の小学生」には、県内外に自主避難した者を含む。）
・　入学者選抜を「適性検査、作文、面接など」により実施する。
・　授業時数を若干増加して各系列にふさわしい選択教科を設け、高等学校にスムーズに接続できるようにする。
・　卒業後は「無選抜」で高等学校に進学し、希望する系列の科目を選択する。

2　想定されるメリット及びデメリット

	メリット	デメリット
双葉郡の子どもたちの受け皿としての役割	○併設型中学校への進学を希望する双葉郡の小学生を、広く受け入れることができる。	
全国や世界に貢献できる人材の育成		●双葉郡の小学生を広く受け入れるため、入学段階での意欲・能力に差が大きく、全員に高度な学習を実施することは難しい。（ＳＧＨやＳＳＨなどの指定校事業の実施も困難となる。）
入学者選抜について	○適性検査・作文・面接などの入学者選抜を実施することで、一定程度の意欲・能力のある生徒を集めることができる。	●合格者より不合格者が少なくなることが予想されることから、不合格者を受け入れる町村立中学校との連携に配慮が必要である。
その他	○併設型中学校における学習成果を郡内の町立中学校に広く普及させることで、同様の教育効果を上げることができる。 ○双葉郡の子どもたちが、適正規模又は適正規模に近い形で学べる環境を整えることができる。	●既存の町立中学校の生徒数が大きく減少する可能性がある。